



Risk Flash No.227 (Vol.6 No.25)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
発行責任者：リスク研究センター長 久保英也

- 国際化の視点：リスク研究センターの国際展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 1-2
- リスク研究センター通信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Page 2

国際化の視点

リスク研究センターの国際展開

リスク研究センター長 くぼひでや 久保英也

滋賀大学リスク研究センターは、中国（東北財経大学）、韓国（啓明大学校）、ベトナム（ハノイ国民経済大学）の三大学と国際交流や共同研究を進めています。9月にはベトナムの国際ジャーナルにハノイ国民経済大学との国際共同研究の成果を公表しましたが、更に国際共同研究を進めるために、中国と韓国の同学が主催する国際会議に出席し、研究報告を行いました。また、今後の国際交流の方向についても打合せを行いました。

(1) 第8回中国保険教育フォーラムへの参加

2015年10月21日（水）～23日（金）に開催されました中国大連市での中国保険学会第8回保険教育フォーラムに参加しました。久保英也リスク研究センター長が研究報告を行うと共に中国保険学会会長との会談を行いました。この国際フォーラムは中国保険学会の最大行事の一つで、テーマは保険教育にとどまらず、リスクマネジメントやファイナンス分野の研究報告も数多くありました。フォーラムの規模は日本で75年の歴史がある日本保険学会の大会より大きく、参加者数は約200名を超え、報告数も3日間で60本、そして、大連市の書記や保険監督局の副局長なども来賓として招待されるなど大連市でも大がかりな会議であることをうかがわせます。



興味を引いたのが台湾の報告者や来賓が非常に多いことです。台湾の大手生保である台湾人壽が大きな協賛金を出したとも言われていましたが、彼らが主催するセッションもありました。11月7日（土）にシンガポールで中国の習近平国家主席と台湾の馬英九総統が1949年の分断後初めてで会談を持ちましたが、この動きを先取りしていたように感じました。

海を囲むように台湾と大陸沿岸部とを新たな保険市場と考え共同開拓を進めるなど、日本では想像しにくいテーマもあり、敏感に国際情勢を反映しているようでした。



今回は、環境リスクファイナンスについて研究報告を行いました。会場は緊張感があり、フロアとのディスカッションも熱心でした。セッションは計量モデルを駆使した報告が多く、研究水準は高いと言えます。環境保険などで先行する日本の研究者にもっと参加して欲しいとの声もありました。ちなみに、東北財経大学とは、現在、共同研究として、「日本・中国の生命保険会社の最適資産配分」をテーマに進めています。

(2) 韓国デグ市で開かれた「18th TCI Global Conference」へ参加。

久保英也リスク研究センター長と金秉基経済学部准教授が参加しました。TCI(The Competitiveness Institute)は、世界110か国の9000人以上の経済開発と競争力強化に関する専門家で構成された世界的なネットワークです。毎年、グローバル・カンファレンスを通じて開発知識や経験を共有するとともにイノベーションのための新しい戦略を探求する組織です。香港とインドに続くアジアでは3回目となる第18回グローバル・カンファレンスは、韓国産業通商資源部と韓国産業団地公団(KICOX: Korea Industrial Complex Corporation)、そして世界銀行(World Bank)が共同主催し、国連工業開発機構(UNIDO)と啓明大学が後援し、11月3日(火)～6日(金)にデグ市で開催されました。「創造経済とクラスター：ビジネスモデルと政策アジェンダ」をメインテーマにしたこの国際会議には、800名を超える経済開発及びクラスター分野の専門家が参加しました。驚いたことに400名以上が87か国から集まった海外の研究者と実務家ということです。



日本からの出席はわずか滋賀大学リスク研究センターの2名と少なく、60名以上の参加があった中国などとは大きな差がありました。会場では、金准教授が研究報告を行うと共に、TCI会長で会議の主導者の一人であるハーバードビジネススクールのChristian Ketels教授らと会談し、彼らが誇る企業のケーススタディの内容や今後の展開について意見を交わしました。また、産業交流の可能性を探るため、Chong In Lim TCI役員、Yoon, Chang Bae 産業支援部部長、柳建佑啓明大学社会科学大学学長とも懇談しました。

2つの国際会議に参加して、日本の存在感は小さすぎると感じ、個人の研究者の活動はもちろんのこと、地道かつ戦略的に国際交流を推進するリスク研究センターの責務は重いと感じました。

リスク研究センター通信

平成27年10月29日(火) 経済学部ワークショップ報告

「女性はプロパガンダ詩を書かなかったかー太平洋戦争期に女性が書いた「戦争詩(愛国詩・国民詩)」をよむ」詳しくは、こちら

<http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/eml/kouenkai2015/WS20151029.htm>

をご覧ください。

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変して blog 等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、菊池健太郎、
金秉基、久保英也、柴田淳郎、得田雅章、山田和代

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局（Office Hours:月一金 10:00-17:00）
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>